

平成29年度 第4回我孫子市放課後対策事業運営委員会

○日 時 平成30年2月9日（金）午前9時30分から午前11時30分

○場 所 我孫子市役所 議会棟 会議室A・B

○出席者 委員

森和枝（委員長） 大島慎一（副委員長） 山田一夫 小池敬志 水谷理沙

坂手千代子 河村千春 阿部美代子 鈴木幸子 古高すま子 太田悟

放課後対策事業スタッフ コーディネーター

山形広子 大野敦子 飯塚章江

事務局：我孫子市 子ども支援課 蛭原弘治 高橋晃 楠瀬尚城

- * 議事録作成のための録音許可について （承認）
- * 傍聴人の承認について （傍聴人の届出なし）
- * 資料確認

1. あびっ子クラブ及び学童保育室の運営について

- (1) 並木小学校の運営について
- (2) 湖北台東小学校の運営について
- (3) 布佐南小学校の運営について
- (4) 我孫子第二小学校の運営について

2. あびっ子クラブ登録料金の検討について

3. あびっ子クラブ利用の検討について

- (1) あびっ子クラブの運用について
- (2) 土曜日のあびっ子クラブの運営について

4. その他

【委員長】 寒い中、またお忙しい中ご出席くださり、ありがとうございます。

放課後対策事業運営委員会の開催に当たりまして、議事録作成のため録音させていただきましたが、よろしいでしょうか。（異議なし）ありがとうございます。

放課後対策運営委員会は公開となっておりますので、傍聴ができますが、本日は傍聴の申請はありませんでした。

本日の資料の確認について、事務局からお願いいたします。

【事務局】 おはようございます。事務局より資料の確認をさせていただきます。

まず次第、その次に資料1、資料2、A3の資料3、最後に資料4となっております。何か不足している書類はありますか。

【委員長】 資料の不足がある方、いらっしゃいましたら、挙手をお願いいたします。

それでは、これより第4回放課後対策事業運営委員会を始めます。本日は6名の委員が欠席となっておりますが、11名の出席があり、会議は成立しておりますので始めていきたいと思えます。どうぞ忌憚のないご意見をよろしくお願ひします。

次第に沿って進めさせていただきます。次第の1番、あびっ子クラブ及び学童保育室の運営状況についての報告をさせていただきます。

まず最初に、並木小学校の運営状況について、コーディネーターからお願いいたします。

【並木小コーディネーター】 おはようございます。並木小あびっ子クラブは、校舎内1階、昇降口近くに玄関があり、下校する子どもたちを見守りながら受け入れていますので、子どもたちが放課後に切りかわる場面にかかわっているという実感があります。廊下側は、授業の移動や下校時に通り、また給食室が向かい側にあることなどから、並キッズたちの様子がよく伝わってきます。

1日の利用数は平均して20人前後、半数以上が1年生です。学童の子どもは利用者の2割程度で、学童保育室と隣接していることから、スムーズに行き来ができるので、あびっ子で遊ぶ約束をしている子どももいます。あびっ子と学童のすみ分けをしつつも、一緒に遊べるときには楽しそうにしています。工作やイベントを設けると利用者数が増え、40人を超えます。学校の懇談会のときはさらに多人数の利用があるので、1教室では狭くなり、校庭に出る時間を早める等で対応しています。普段、室内ではカプラ、レゴ、こま、ドミノ、きらきら工作などを好んで遊んでいます。校庭では、わんぱく丸、冒険山で走り回ったり、バスケットボール、バドミントン、サッカーなどで時間終わりまでよく遊び、チャイムが鳴ると部屋に戻るという習慣がついています。

チャレンジタイムは、スタディ、囲碁、工作、カレンダー、また時々将棋大会、折り紙、オセロ大会、ドッジボール大会などのイベントを設けています。先日の囲碁チャレンジでは、久しぶりに6年生の男の子が参加し、サポーターさんととてもよい勝負をしていて、子どもの成長がうれしかったです。

先日のオセロ大会などでは、子どもたちがよくわかるように対戦表を大きく作り、初めての子ども同士でも打ち解けて、対戦していました。賞が欲しくて頑張っただけで毎日来ている子もいました。

並木小では、近所のサポーターさんが来て、気さくな雰囲気子どもたちに声をかけてくださっています。うれしくて飛びついたり、遊んでほしくて生意気な言葉を言っていることもありますが、穏やかに明るくかかわってくださるのでありがたいです。

以上です。

【委員長】 ご報告ありがとうございました。活発に遊んでいる様子が目に浮かぶようです。オセロ大会や囲碁大会など、あびっ子クラブならではの大会が身近にできており、良いですね。

皆さん、何かご質問とかありましたらお願いします。(質問なし)

続いて、湖北台東小学校の運営状況についてお願いします。

【湖北台東小学校コーディネーター】 皆さん、こんにちは。湖北台東小学校コーディネーターです。

私からは、湖北台東小学校のあびっ子クラブの様子をお話したいと思います。12月には、終業式の日ドッジボール大会を行いました。体育館で開催したので、天候に関係なく子ども達が参加できてよかったと思います。体育館を使用するときには上履きを「必ず履いてね」という呼びかけをしているのですが、終業式の日開催したので、上履き忘れもなく、大勢の子ども達が楽しく参加できました。このときにキャプテンを決めたのですが、一番年長の子をキャプテンにして4チームつくりました。そのキャプテンには、支援学級の子も含め年長者を入れたので、キャプテンとしての役割ができて、とても楽しそうに行っていました。大会が終わるころには、各チームのメンバーもキャプテンを立てて、キャプテンの後に従って行動をするということが自然にできていて、とてもかわいかったです。

先日、けん玉大会も行われました。これは、けん玉のサポーターさんが企画してくださって行われたものですが、今では高学年になってしまって、あびっ子クラブに全然来っていない子がいたのですが、この子がけん玉で段を取るぐらいの名人に育っていたんですね。その子が突然、参加してくれて、普段、あびっ子クラブに来ていない子どもたちも、あびっ子クラブの入り口

に鈴なりになって、その子の名人技を見るというような、ギャラリー参加もあったのがとてもおもしろかったです。その子は、都合もあり、途中で帰ってしまったので、「この子がいなければキングはほかの子が取れるよ」と言うと、ほかの子達も参加し、とても楽しく遊びました。

このようにチャレンジタイムは、子ども達が楽しく参加しており充実しています。特にあびっ子クラブに学童から参加するお子さんは、支援学級のお子さんがとても多いです。あびっ子クラブのほうに参加していると、人数のゆとりもあるせいなのか、場所も広いせいなのか、結構伸び伸びとしていられるようです。

先日、2月3日土曜日なんですけれども、学校のセキュリティシステムが作動したということで、お巡りさんが6人も来られてしまったということがありました。湖北台東小あびっ子クラブは、3階にあるのですが、1階の入口を開放してあるので、2階やほかの階には行かないようについ立てがしてあります。これは子ども達にも、浸透しておりまして、今までセキュリティシステムの作動ということはほとんどなかったのですが、たまたま土曜日は、あびっ子クラブの入口しか施錠していないところがなかったもので、そこから入り、忘れ物を取り来たのではないかと思います。このようなことがあったので、教頭先生まで出てこられたことがありました。あびっ子クラブのある3階から1階の入口を見張るのはとても難しいので、子どもたちにも改めて声かけを行い、勝手に忘れ物を取りに行っちゃいけないということをお便りにも書きました。より一層、気をつけていきたいと思っております。

ありがとうございました。

【委員長】 ありがとうございます。気を配らなくてはならないこともいろいろあるかと思いますが、あびっ子クラブならではの、1年生から6年生まで、横のつながりではなくて縦のつながりができている。ドッジボールでもキャプテンがいて、上の子たちが尊敬されながらゲームができるという、その環境はすごくいいですね。

何か皆さんからご質問とかありましたら、どうぞ。(質問なし)

では、3番目、布佐南小学校の運営状況について、お願いいたします。

【布佐南小学校コーディネーター】 おはようございます。布佐南小学校のコーディネーターです。布佐南小では、ほとんど毎日あびっ子クラブと学童と両方一緒に見えています。私は4年目になりますが、最初の2年間は学童保育室の児童数が1桁台の在籍だったので、あびっ子クラブの子どもたちが来ないと遊びが成立しない状態でした。あびっ子クラブに来る子も多かったのですが子どもたちの放課後は大分楽しく成り立っていたのかなという状況でしたが、昨年かから今年にかけて学童も在籍児童数が多くなりまして、2月1日現在で18人の児童が在籍して

います。反対に、あびっ子クラブは4時半に終わってしまうということもあって、冬の間は平均5人ぐらいの利用ですので、あびっ子クラブが始まったころとは、全く違う状況になってきたなという感じです。あびっ子クラブも、常連の子どもたちが来ていますが子どもたちの様子を見ていますと、おうちに保護者がいて遊びに来るというよりも、お仕事でおうちに保護者がいない子たちの利用の場になっているのが、布佐南小の現状です。

チャレンジタイム等もいろいろ実施してはいますが、どうしてもマンネリ化してしまうので、何か新しい事を考えなくてはと感じています。同時にいつも来ていただいているサポーターさんたちは、子どもたちのこともよくわかってくださっているのです、私たちもとても安心して子どもたちの時間を一緒に過ごさせてもらっている状況です。

【委員長】 ありがとうございます。布佐南小学校は、児童数自体が少ないので、学童、あびっ子クラブともに少人数となっています。少人数の良さもあるとは思いますが、活発化への課題があるようです。

皆さんから何かご質問ありますでしょうか。(質問なし)

それでは、4番目です。我孫子第二小学校の運営についてですが、こちらは急遽、コーディネーターが体調を崩して欠席しております。あらかじめ報告内容をいただいておりますので、事務局から報告をさせていただきます。お願いします。

【事務局】 本日欠席のコーディネーターより、原稿をいただきましたので、代読させていただきます。

二小あびっ子クラブと学童の様子です。二小は、下の校庭でヒツジとヤギを飼育していて、のどかな感じの小学校です。先日も「ヤギの赤ちゃんが生まれたよ」と子どもたちが教えてくれました。二小あびっ子クラブのシンボルマークのヒツジで、毎月発行しているお便りに登場しています。また、部屋の壁面にもたくさんのヒツジたちがいます。今月のチャレンジでは、「ヒツジを増やそう」という工作を予定しています。子どもたちの手で壁面にたくさんのヒツジが増えるのを楽しみにしているところです。

二小で行っている主なチャレンジタイムは、工作、けん玉、囲碁、それと毎月のカレンダーづくりです。今月はインフルエンザによる学級閉鎖もあり、遊びに来る子どもたちは少なめで、20名前後の子どもたちが来ています。工作としては、和紙の折り紙でひな人形をつくりました。男びな、女びなとそれぞれに折って台紙に張り、みんなすてきにでき上がり、うれしそうに持ち帰りました。また、紙皿で皿回しも作りましたので、子どもたちはつくった作品を楽しそうに回していました。工作のときは、いつも大盛況です。

月に1回行われているけん玉ですが、今月はけん玉大会を予定しています。今、エントリーを受付中で、子どもたちのたくさんの応募を待っているところです。

室内では、パズルマットを使っておうちをつくり、お店屋さんごっこなど、楽しそうに遊んでいます。私たちも、たまにお客さんになったりしています。

学童の様子ですが、室内では、積み木でおうちをつくって人形で遊んだり、男女混じって仲良くゲームなどを行っています。男の子には、こまが人気で、それぞれで競い合っていたり、手の上に乗せる技を見せてくれる子もいます。女の子は、誕生会で発表予定の恋ダンスの練習をにぎやかに踊っています。外遊びでは、鬼ごっこや縄跳び、サッカーなどで、寒さに負けずに校庭を走り回っています。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。1月、2月はインフルエンザが流行り、スタッフの皆さんも体調に気をつけてください。二小は、動物とのふれあいというのが特徴的ですね。ヒツジがトレードマークになっているということでした。

皆さんから何かご質問ありますでしょうか。(質問なし)

次の議題に移りたいと思います。あびっ子クラブ登録料金の検討についてです。登録料に関するアンケートの集計結果を前回もお話ししましたが、そのアンケートと、これまでの運営委員会からのご意見等をもとに市で協議を行いました。その結果についてご報告いたします。事務局からよろしくお願いします。

【事務局】 あびっ子クラブ登録料の検討についてご報告させていただきます。

まず初めに、これまでの運営委員会の中で、今回の登録料見直しの経緯等、前回の運営委員会等で説明させていただきました。理由としては、大きく分けて2つございます。

まず1つ目が、平成30年度に布佐小あびっ子クラブが設置されることによって、市内全小学校にあびっ子クラブが設置されること、これを一区切りとして、登録料金を含めた運営方法等をいま一度見直そうという形になりました。

2つ目は、あびっ子クラブの事業費が増加していく中で、登録料はこれまでと変わらず、利用者負担の金額が500円のままであること、公費負担をどこまで必要とすべきか、適正な負担を常に確保していくために定期的に金額を見直す必要があるだろうと、受益者負担の見直し等を報告させていただきました。

このような理由から、今回見直しを行いました。見直しについては、アンケートの実施や、前回の運営委員会で皆さんのご意見をいただきました。事業運営費の推移についても、あび

っ子クラブの設置数が少なかった頃と比べ、事業費が大きく増大している現状を、前回の運営委員会で報告させていただきました。

市では、学童保育室とあびっ子クラブ、それぞれの目的、事業費の現況を踏まえて、必要な事業に必要なサービスを提供することを考えています。

アンケート結果や意見、運営委員会にていただいた意見等を総合的判断し、登録料を1,000円として進めていきたいと考えています。

登録料の変更と併せて、学童登録児童と生活保護世帯、プラス準要保護世帯、この3つを減免対象とする規則改正を検討しております。平成30年度中は準備を行い、平成31年度の登録時からこの内容で変更できるように準備を進めます。

以上が報告になります。

【委員長】 事務局から報告があったとおり、登録料は1,000円とし、減免の範囲を広げて、準要保護世帯の方も減免対象にしていくことで検討しております。今の説明について、ご質問とかご意見とかありましたら、お願いいたします。登録料については、皆さんからもご意見をいただき、アンケートでも、説明があったとおり、1,000円以上が妥当ではないかという方が半数以上を占めているということから、1,000円とさせていただきましたが、ご意見はありますでしょうか。(意見なし)

減免については、これから決定していきますので、また運営委員会で報告をさせていただきます。

次に次第の3番目、あびっ子クラブ利用の検討について、(1)あびっ子クラブの運用についてです。こちらは現在の運用の中で様々な課題が出ております。この機会に実際の運営方法についてお知らせをするとともに、課題について委員の皆様方からもご意見を伺いたいと思っています。では、事務局から説明をお願いします。

【事務局】 それでは、あびっ子クラブ利用の検討についてご説明させていただきます。先ほど、あびっ子クラブ登録料金において、いわゆる収入面についてをお話させていただいたところです。先ほどの説明にもあったように、これまで運営事業費に経費がかかりすぎているところは、皆さん、ご存じのことかと思えます。今度はそれにかわりまして、事業費を抑えるために運営のスリム化を図り、事業の縮小できるところ、いわゆる運用面の必要なところ、不必要なところを洗い出して支出を抑えられるようにしたいと考えております。今回は、その運用の中で、子どもたちがあびっ子クラブに登室、退室する際の事務のやりとりで課題が生じているという話が上がっておりますので、ここでいま一度、登室、退室時の事務の流れを見直

したいと考え、議題に挙げさせていただきました。

あびっ子クラブの利用について、すでにご存じの方もいらっしゃると思いますが、再確認という意味で、まずはあびっ子クラブの1日の流れというものを簡単にご説明させていただきます。資料については、資料2と資料3を両方合わせて説明させていただきます。

まず、資料2-1をごらんください。こちらは通常時のあびっ子クラブの利用、学校休業日のあびっ子クラブの利用、チャレンジタイム時のあびっ子クラブの利用、3種類に分けさせていただきました。通常時は放課後の時間があびっ子クラブの利用になると思います。大体5時間目、6時間目が終わってから、そのままあびっ子クラブに来て、子どもたちは受付をして、そこから自由に遊ぶという流れになっております。チャレンジタイムについては、チャレンジタイム用の受付をしてから、パターゴルフやお琴などのチャレンジタイムに参加して、チャレンジタイム終了後、そのまま自宅に帰るか、もしくは再びあびっ子クラブで遊ぶという流れになります。最後に、帰る際は、退室の手続きをとって自宅に帰る形となっております。

こちらの資料からわかるように、どの流れでも、必ず子どもたちが行っているのが、この受付事務となっております。受付がどのような流れになっているかというのが、資料2-2になっております。その流れとして、子どもたちをお願いしている事項が全部で4つあります。この4つについて、なぜ必要としたかといった「目的」、どのように行っているかの今の「現状」、そして、現在この事務を行っていて生じている「課題」、今後どのようにしていくかという「今後」の4つに分けたものが資料3になるんですが、こちらとあわせて流れを説明させていただきます。

まず、子どもたちがあびっ子クラブに来た際に最初に行うのが、参加カードの提示になります。現在、参加カードは1年生から3年生、主に低学年の子どもたちに提示をお願いしているものになりますが、こちらの目的としては、低学年の児童は高学年の児童に比べてまだ学校生活に慣れていないこともあり、保護者と子どもの間であびっ子クラブに行くことが承認されているのか、保護者と約束してあびっ子クラブに来ているのかという確認をとりたいため、参加カードの提示を求めているところです。

現状としては、参加カードは、基本的に子ども支援課で作成しているのですが、A4用紙の4分の1の大きさの参加カードを1年生から3年生の子どもたちへ配布しています。学校により学校行事の日程が変わるので、閉室日等をあらかじめスタッフに確認してから作成します。斜線は、閉室日になります。作成した参加カードはあびっ子クラブ経由で子どもたちに配布しています。

利用としては、あびっ子クラブに行く日を決めたら、その日の枠に保護者が押印した上で、子どもたちに持参してもらうことになっております。万が一、登室の際に参加カードを忘れてしまった、または保護者の押印がない場合は、基本的にはあびっ子クラブを利用することができませんということを事前にしおり等でお知らせさせていただいているところです。ほかには、参加カードに保護者の方が、例えば16時に帰宅というような記入がある場合は、その時間にあわせてスタッフが声かけを行っているあびっ子クラブもあります。

こちらの参加カードの課題ですが、先ほども申し上げましたとおり、カードを忘れることや、押印漏れが多いところにあります。その際は、基本的にあびっ子クラブを利用することができませんが、どうしてもという際は、スタッフが保護者へ連絡及び確認を行っていますが、その対応に時間を削られてしまい、遊びに来ている子どもたちに対しての時間がしっかりとれないところがあります。また、保護者と連絡がつかないこともあり、対応に苦慮しているところが課題となっております。

また、過去には、配布された参加カードの利用できる日全てに先に押印されて、本当に親子で了承のもと使っているのかというところ等、疑問に思うところもあります。子どもが印鑑を自分で押して利用する場合や、本当は習い事、病院に行く用事があるのに、うそをついてあびっ子クラブを利用するというのも、実際にあった出来事なので、そういうところも課題です。

参加カードの配布は、現在毎月配布しています。毎月利用する子であれば特に課題とはなりません。登録している子、全員に配布しているので、利用する子、利用しない子、関係なく配布しているため、作成する事務作業にも無駄が生じているところがあるのではと考えております。

これらの課題について、参加カードの有無を含めて、所管課で改善案を検討しました。まず1つとしては、参加カードの「変更」です。変更案としては、これまでは毎月参加カードを作成していましたが、今度は、利用決定の段階でこの参加カードを配布するという形をとりたいと考えました。理由としては、本来、親と子どもとの了承のもとで利用しているのか、安全確保の意味でも確認したいという思いがあります。あとは、子どもたちの自由に来て自由に帰宅する場でもあるので、時間の使い方を覚えてほしい考えもありまして、参加カードは継続していきたいと考えています。ただ、現在使用している参加カードでは、押印だけで済んでしまうので、少し手間ではありますが、利用したい月日を記入していただいた上で保護者の押印という形としました。カード忘れ、押印漏れに対しては利用できない旨を再度周知徹底を図りたいと考えています。

参加カードの作成も月ごとではなく年間通して使用する様式としたので、使いきった場合は、滞りなく入手できる様、常時あびっ子クラブに配置するように考えています。このことにより、一番最初に配布した後、新たに参加カードが必要になった子どもたちは、あびっ子クラブに行けばもらえるので、作成する枚数も減り、作成に係る人件費や紙代等の経費の削減が図れると考えております。

もう1つの案としては、参加カードを「廃止する」になります。こちらはそもそも、子どもたちが自由に来て自由に遊ぶ場の提供であるため、保護者の承認は必要ないのではないかとという理由で、改善案の1つとして、「廃止」をあげさせていただきました。

この案をもとに、参加カードの必要性を含めて、委員の皆様にご意見を伺えたらと考えております。

また、帰宅時の声かけについてですが、現状として、あびっ子クラブと学童が、どうしても同じ事業と考えてしまっている保護者が多いです。目的が異なるので、学童保育室との差異をつけたいという考えもあり、個別に声かけを行うことは控えさせていただきますという内容も、あびっ子クラブのしおりに明記して、違いをはっきりさせていきたいと思っております。あびっ子クラブの閉室時間や、緊急時には、もちろん声かけしますが、例えば「4時には絶対帰らせてください」など、保護者からの要望による個人的な声掛けに関しては、控えていきたいと考えています。

続いて、資料2-2に戻ります。1年生から3年生は参加カードを提示して、スタッフが確認した後、今度は名簿に名前を記入してもらいます。4年生から6年生は、あびっ子クラブに来た後、すぐに名簿へ名前を記入することになります。名簿を設けた目的としては、子どもたちの入室、退室時間を確認する、または登室状況を把握するためです。名簿に関しては、もし子どもが帰った後に、まっすぐ家に帰っていれば問題ありませんが、どこか寄り道してなかなか帰ってこないために心配になる保護者も当然いるかと思っております。その保護者があびっ子クラブに電話したときに、帰宅時間を伝えることができます。

現状としては、まず、あびっ子クラブに来たら、名簿に登録児童の名前が載っているので、その名前の横に参加欄があるので、子どもたち自身で自分の名前に丸をつけてもらいます。帰る際は退室時間を記入してもらいます。

学童の子どもたちがあびっ子に来た場合、例えば、学童をお休みしてあびっ子クラブに遊びに来たという場合は退室時間を書いてもらいますが、あびっ子クラブで遊んだあと学童に行く子どもについては、参加の丸のみとしています。

課題としては、あびっ子クラブに慣れていない子ども、特に1年生や初めて使う子どもたちは、記入を忘れてしまうことがあります。今後としては、子どもたちも慣れてくれば自ら記入するようになるとの報告もあります。慣れない子どもたちに対してはスタッフからの声かけをしっかり行うことで、名簿については現状のまま、継続していきたいと考えております。

次に資料2-2の裏面になります。子どもたちが名簿をつけ終わった後、リストバンドを自分の腕につけます。リストバンドの設置場所に自分の名前が書いてあるマジックテープがあります。そのマジックテープをリストバンドにつけて、腕に巻きます。リストバンドをつけるようにした目的は、あびっ子クラブを利用している児童や、学童に属している児童をスタッフが見分けられるようにするというのが主な目的になっています。現状は、ほとんどのあびっ子クラブで3色のリストバンドを活用しています。主に学童に所属している子、あびっ子クラブのみ利用している子、学童をお休みしてあびっ子クラブを利用している子、この3つに分けているところです。リストバンドの色に関しては、各あびっ子クラブごとで異なりますが、あびっ子クラブに遊びに来たら必ず巻いてもらうようお願いしています。

リストバンドの課題は、リストバンドの大きさ（長さ）です。小さいサイズと大きいサイズの2パターンを作成していますが、例えば同じ1年生でも腕の太さが異なり、サイズが合わなくて上手く巻けない子どもがいます。またリストバンドがナイロン製で、少し固い素材になっています。そのせいで夏場等の暑い時期にかぶれてしまう子どももいて、リストバンドを巻くのが嫌だという子もいます。かぶれてしまうという理由からか、足首に巻く子どももいるそうです。足首に巻くという行為は、リストバンドが見えれば問題ありませんが、服の下に隠れてしまい、肝心のスタッフが見分けることができなくなってしまうこともあります。

他にも外遊びでもリストバンドを着用しているので、汚れてしまうこともあります。今後の改善策として、リストバンドをほかのものにできないかという面も含めて検討させていただきました。リストバンドをそのまま使用する際は、長さ調節ができるようにリストバンドを今後作成していきたいと考えております。足首に巻く子もいるかと思いますが、必ず服の上に着用するようにお願いしていくこととします。

また、リストバンド自体を別のものに替えられないか検討したところ、先日、船橋の放課後子供教室、「船っ子クラブ」というところがあり、そちらを視察させていただいたときに、くると巻き付くスチールバンドのようなマグネットがありました。そちらも検討してみましたが、単価が高いため、導入は難しいと考えております。

名札も検討しましたが、特に安価でもなく、遊ぶときに、ケガの恐れがあると考えました。

このようにいろいろと検討しましたが、当面の間はリストバンドを正しく腕に巻くように指導しながら、引き続きリストバンドを継続していきたいと考えています。他に良い案があればご意見を伺いたいと考えています。

最後に、リストバンドをつけ終わった後にマグネットの作業に入ります。マグネットの目的としては、子どもたち自身が校内のどこにいるのかを知らせるためのものです。このマグネットに名前を書いて、自分の行きたい場所、例えば体育館や、図書室、メインルームというようにあらかじめボードに分けて書いてあるので、行きたい場所に自分の名前が書いてあるマグネットをつけるようになっていきます。このことにより、例えば保護者がお迎えに来た際に、子どもがどこにいるのかスタッフが把握しやすくなります。また、「今は外にいますよ、呼んできますね」といった対応もできます。

課題としては、子どもたちには、移動する際にはつけ変えるように指導はしていますが、遊びに夢中になってしまい、つけ変えを忘れてしまうことがあります。その他、子どもたち同士で悪ふざけをして、マグネットをいたずらに移動してしまうことがあります。こちらに関しても、子どもたちも慣れてくれば自らつけ変えるようになることや、緊急時等には子どもたちがどこにいるのかを把握できるので、マグネットに関しては、引き続き継続していきたいと考えております。

登室の際はこのような流れになっており、帰るときには名簿に帰る時間を記入し、リストバンドはあびっ子クラブに戻って外し、所定の場所に戻す。マグネットは、自分の名前を消して、元の場所にマグネットを返す作業をしてから、自宅に帰るという流れになっています。

以上が登室と退室に行う作業になります。参加カードの必要性や、子どもたちの見分ける方法、受付に関する事等でご意見等を伺えればと思います。よろしくお願いいたします。

以上です。

【委員長】 あびっ子クラブの運用について、1番参加カード、2番名簿、3番リストバンド、4番マグネットということで、それぞれ課題を挙げさせていただいています。2番の名簿と4番のマグネットについては、多少課題はあるものの、慣れればうまく運用できるのではないか、必要性からもそのまま継続していきたいということで、変更なく、しばらくはこのまま継続していきたいと思っております。

まず1番の参加カードですが、参加カード自体の変更、もしくは参加カードを廃止しても良いのではという意見の中で、例えば参加カードは1年生だけで良い、または2年生まで必要、それ以降は廃止しても良いのではという意見もあるかと思えます。他には、慣れない1学期だ

け使用してみても等々、参加カードのあり方をどのような形で持っていくのが良いのか、ご意見いただければと思っています。皆さん、いかがでしょうか。

【委員】 4年生以上は参加カードを必要としない理由を再度確認させてください。

【事務局】 4年生以上となると、時間の使い方にも慣れ始めていることや、子どもによっては習い事も増えてきます。高学年に関しては、参加カードは特に設けなくても自分たちで考えて行動できるので、特に参加カードは必要ないと判断し、今は1年生から3年生のみの配布となっています。

【委員】 カード忘れ、押印漏れが多いというのは、非常に理解できます。学校現場でいえば、プールやマラソンの持久走練習等、親の承諾や、体温をはかって来てこない子はプールに入れないということは、徹底していると思います。しかし、それはあくまでも生命や健康の保持のためであり、命にかかわるということが前提だと思います。今回の場合は、子どもの居場所づくりというのが前提で、4年生以上は必要としないでも機能するのであれば、私は個人的には、カードを廃止しても良いのではと思います。学校生活に慣れていないので、1年生のときには必要ではという気はしますが、4年生以上は必要なくて機能しているので、課題のところに書いてあるように、スタッフの皆さんが保護者へ連絡し確認する手間やすでに遊びに来ている子どもの気持ちを考えれば、思い切って廃止もしくは1年生の1学期のみ等が良いのではという気がしました。

【委員長】 ありがとうございます。学校で使っているプールカードとはまた目的が異なるものになりますので、参加カード自体を廃止ということも視野に入れたいと思っています。

他にご意見ありましたら、ぜひいただきたいと思います。保護者の立場からはどうですか。

【委員】 今お話を伺って思ったことを述べさせていただきますと、現実的かどうかは別として、例えばどこか学習塾等で利用しているシステムがあると聞いたことがあります。子どもたちがカードを持っていて、カードを機械にかざすと保護者に入室しましたみたいな連絡が届くシステムがあるようですが、そのシステムがどのような形で導入できるのか、経費がどのくらいかかるのか、設置できるのかどうか、設置する意義があるのかどうかも定かではありませんが。

このシステム導入費と削減できる人件費を比べてみないとわからないと思いますが、そのようなことも調べた方が良いかと思います。もしそれが経費削減につながるのであれば、ほかのところにお金を使って、質の向上にもつなげられるのではと思います。先ほどのマグネットの件については、現状ではそれが一番ベストな方法だと思いますが、例えば子どもが来たとき名

札のようなものをつけると、子どもの居場所が電子的にわかるようなものがあれば、呼びに行くことや、探すという手間もなくなるのかと思います。今申し上げたことの必要性や早急な対応が可能か否か、また代替策もあるかと思いますが、どのようにすれば負担が少なく安全に過ごせるのか、様々な方向から検討していただければと思います。

また、運営委員会等で協議するほかには、どのように話し合われてどのように決定しているのかが少し見えづらく疑問があります。

さらに、学童とあびっ子クラブの管理の難しさがあるようですが、例えば、あびっ子クラブの子がお迎えがない等、困ってしまう子がいるのであれば一時的に学童で預かって延長料金を徴収する等、スタッフは大変になるとは思いますが、必要であれば検討しても良いのではと思いました。

あと、現状は把握していないのですが、あびっ子クラブの施設利用方法やサービス内容等を保護者に対してどのように周知されているのでしょうか。私の子どもはすでに入学してしまっているのですが、新入生に対してどのように説明されているかわからないのですが、利用方法を記載したパンフレット等を活用してはいかがかと思いました。

あびっ子クラブに関して、万が一、子どものトラブルによってあびっ子クラブが乱れるようなことがあるのであれば、決まりが守れない子どもについては、守らないと利用できない旨の規則もありなのではないかと思います。スタッフの方が、その場を楽しく、みんながトラブルなく過ごせるために労力を要するのであれば、公共の場所という意味で、保護者の方にも理解していただき、問題がある場合は利用できないという決まりも必要なのではと思いました。

【委員長】 ありがとうございます。急に議題にした内容ですので、なかなか意見を出すのも難しいかもしれません。あびっ子クラブの周知について、市としてどのように対応していますかという質問もありましたので、事務局から回答をお願いします。

【事務局】 何点かありましたので、1つずつお話させていただきます。

一番最初にありましたシステムについてですが、同様のシステムが船橋市で導入されています。船橋市の担当者に聞いたところ、その機械はかなり壊れやすいとのこと。そのため、維持費が非常にかかってしまうという話を聞いています。ただ、導入機械や機械の修繕費等細かな数字までは把握していません。

続きまして、運用については、「コーディネーター会議」というのがあり、各あびっ子クラブのコーディネーターを集めて、いろいろな問題を話し合う会議があります。各あびっ子クラブにはサポーター会議もありますので、必要に応じて、そのような会議の場で物事を決めていま

す。今回の議題自体は、運営委員会で話す内容なのか迷いはありましたが、再確認という意味も込めて、議題に挙げさせていただいたところです。

次にあびっ子クラブの延長、お迎えについてです。子ども目線では難しいところが非常にあると思います。しかし、安全確保を求めるとすれば、我々としては、学童をご利用くださいとお願いします。あびっ子クラブ自体は、自由に来て、自由に遊ぶ場ですので、開室時間は市内のチャイムの時間とあわせて、暗くなるのが早い時季であれば4時半を閉室していますので、最低限の遊べる時間を確保できればと考えています。

次に、新1年生へのお知らせについては、各小学校にお願いして、就学時健診のときに、あびっ子クラブと学童の担当がその場に伺ってあびっ子クラブと学童保育の内容や手続き方法等を説明しています。短い時間ではありますが、しおり等を渡して説明をさせていただいているところです。

最後に、なかなか決まりを守らない子どもについてです。学童では、何かしら支援が必要な子の場合、必要に応じて「加配」、スタッフを多く配置することもあります。基本的には、「あびっ子クラブは特別な援助はつけられません」という事は、事前に周知しているところです。今のところ、支援が必要な子については、学童を利用する子が多いので、特に問題はありませんが、あびっ子クラブにも保護者の協力が必要な部分がありますので、その場面に応じて協力を仰ぐことは必要だと考えています。

以上です。

【委員長】 本題に戻りまして、参加カードのあり方ですが、参加カードの目的自体が、保護者と子どもの間であびっ子クラブに行くことが承認されているか否かをスタッフが確認するという目的で参加カードを作成していますが、参加カードが実際に必要なのか。必要であれば、学年や、期間等について、ご意見がありましたらお願いします。

【コーディネーター】 参加カードについてですが、あびっ子クラブをスタートするときに運営協議会というのがありまして、学校の校長先生方もいらっしゃって、1年生は5月から参加がいいのではないかと、4月はまだ慣れていない、学校サイドも混乱してしまう。5月も、子どもたちはまだ集団下校している時期なので、あびっ子クラブを利用するのか、それとも直接帰宅するのかを先生方も確認ができないということで、学童利用者、そのまま集団下校する子どもたち。そこにあびっ子クラブが加わったとき、学童に行く子は学校側も把握しているけれど、あびっ子クラブの利用は日によって変わるので把握が難しいため、一目でわかるものがほしいということから参加カードがスタートしたので、私自身は、少なくとも1年生は必ず必要

と思います。そのときの意見では、親に内緒で参加したときには親側で探さなくてはいけない、1年生の親と子ではうまく連絡がとれないのではないかとということでスタートしました。新しいシステムが構築されれば、またそれは変わってくると思いますが、1年生は参加カードが必要と思います。

【委員長】 ありがとうございます。他にいかがでしょう。

【委員】 コーディネーターの方々は承知している細かい説明をいただきまして、ありがとうございます。4年生から部活動がありますので、参加カードは必要ないように思われます。3年生になりますと、学校の中で、その日にあびっ子クラブに行こうか等、急に決まることがあるので、3年生は必要ないと思うことが多かったです。でも、1年生、2年生くらいまでは、必要と思います。おうちでの話し合いもやはり必要な年齢だと思いますので、1、2年生は必要と感じております。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。どこで区切るかというのは難しいところですが、廃止というよりは、慣れるまでは参加カードは必要である、学校側でもきちんと把握したいという目的もあることから、廃止ではない方向で検討していきたいと思います。期間やカード忘れ、押印漏れについては、ご意見を伺ったものを課としてもんで、検討したいと思います。他に参加カードのあり方、特に参加カードの変更についてですが、今まで月ごとにカードを渡していました、既に印鑑を押されてしまっているということや、参加カードの意味がなくなってしまうような事も生じていますので、様式を変更して、何月何日、参加しますと押印してもらうという形をとるほうが、保護者もきちんと確認できるため、新しい様式に変えていくことを考えております。そちらについては、ご意見とかはありますか。(意見なし)

参加カードについては、運用してみて問題が生じたときに再び議題にのせることがあるかと思っておりますので、よろしく申し上げます。

次に、リストバンドですが、必要性はあると考えています。しかし、課題もあるので、リストバンドでは、別のよいアイデアがあれば、皆さんからお聞きしたいと思います。

委員会終了後でも構いませんので、良いアイデアが出ましたら、ぜひ教えていただければと思います。

では、次に、あびっ子クラブ利用の検討についての(2)です。土曜日のあびっ子クラブの運営について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】 それでは、土曜日のあびっ子クラブの運営についてお話をいたします。

現在、我孫子市全体で財政状況が逼迫しており、市全体で事業の見直しを行うよう企画財政部門より話がありました。運営費を抑えるために、利用率が低い土曜日の運営にまず着目いたしました。当初は、スタッフから要望があった土曜日、日曜日、祝日等で、連休に続く土曜日の運営の見直しや、利用率が著しく低いあびっ子クラブの一時閉鎖等も検討した次第です。前段でお話しした内容につきまして、資料4-1、4-2をご覧ください。

資料4-1は、全てのあびっ子クラブにおける一般利用者、こちらは学童保育に登録していない児童の土曜日の利用状況の集計です。これは昨年2月から今年1月までの1年間の土曜日のトータルです。一番下の段を見ていただきますと、登録者数の横に月の平均参加人数、月平均のトータルの年間44.5人です。こちらを平均の利用率で見た場合ですと、1.32%という利用率になります。

続いて、4-2の資料で、各小学校のあびっ子クラブ別の一般利用者です。学童保育に登録していない児童における土曜日の利用状況の集計です。同じように平成29年2月から30年1月までを集計しています。

一小あびっ子クラブにつきましては、年間を通した月の平均の参加人数は3.6人です。これを平均の利用率で見ると1.02%です。

四小あびっ子クラブにつきましては、月の平均の参加人数は8.5人です。平均の利用率は1.85%です。

根戸小あびっ子クラブにつきましては、平均の参加人数月6.2人です。平均の利用率は1.14%です。

並木小あびっ子クラブにつきましては、平均の利用が1.8人、平均の利用率が0.73%となっております。

続いて、下段の新木小あびっ子クラブにつきましては、平成29年3月から開設しましたので、3月からの利用になります。

布佐南小あびっ子クラブにつきましては、第1回の放課後対策事業運営委員会でお話させてもらった経緯があったと思いますが、土曜日の利用が極端に少ない実績から、一時閉鎖をしているあびっ子クラブです。

このことから、全体を通した学校別、小学校別で比べた場合でも、土曜日の利用率が低い状態であるということがわかりました。

今後、土曜日の運営について、来年度の検討課題として考えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

【委員長】 布佐南小あびっ子クラブについては、ほとんど利用者がいなかったということから、現在閉室をしている状況です。ただ、ほかの小学校においても利用率がかなり低いという状況がありますので、運営効率を考えて、学童保育室とあびっ子クラブの土曜日運営をどのようにしていくか、今後考えていきたい、次年度の課題としていきたいと思っております。

そのほかに、あびっ子クラブ、学童保育室で、来年度の検討課題として取り上げてはいかかかというようなご意見がありましたら、皆さんから伺いたいと思っております。それをもとに来年度の検討課題を組み立てていきたいと思っております。皆さんいかがでしょうか。

【委員】 私は今、湖北地区公民館に勤めております。学校現場に勤めているときには、子どもたちは土曜日になると地域のスポーツ団体ということで、野球、サッカーや、バスケット等、いろいろなスポーツをしています。公民館でも、乳幼児から、親子向けから、高齢者まで、幅広い講座を年間80本しており、私の勤め先でも「チャレンジランキング」通称「チャレラン」というものを年間4回ほど開催していますが、ついに参加人数「ゼロ」を記録しました。

子どもたちが来ないのです。隣の湖北小や新木小にもチラシをまいて、ゼロを体験してしまったので、周知方法等を変えようということで、私が在籍していた我孫子第一小のバザーのスペースを借りて、お菓子まつりを開催したり、市民プラザで開催している講座に足を運び、団体と名刺交換をして、参加交渉を行って1月にボードゲームを開催しました。これも湖北小と新木小、近隣にはチラシを全部配りました。

しかし、結論から言いますと、10名の参加がありましたが、本当に来たのは2組5名です。あとの5人は、湖北小で遊んでいる子に、私が「おいで」と誘って何とか10名で開催しました。これが何を言いたいかというと、土曜日というのは子どもを集めるのが困難だと私は実感として思います。

この実態を見ると、あびっ子クラブも非常に苦勞されていると感じます。オープンしていて、子どもたちを待っているスタッフさんの気持ち、私はよくわかります。泣きたくくなります。やっと1人来てくれた時の気持ちやその子と楽しく過ごすことができれば充実はしますが、果たしてそれで良いのかという気持ちはわかりますので、この低い数字を見て、スタッフの皆さんの悲しい気持ちが私は理解できる、これは感想でもあります。

また、公民館は来年どうするかというと、川村学園女子大学のある先生と話し合っ、大学生が勉強を教えますというような、違った趣旨で事業を進めていこうかと考えております。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。あびっ子クラブだけではないんだなというのを今、実感しました。

ほかの委員さん、いかがでしょうか。何か課題に思っていることや、あびっ子クラブの土曜日の状況をご説明しましたが、その中でご意見や質問はありますでしょうか。

【委員】 まず、先ほどシステムの話が出たので、そこに関してお話をさせていただきたいと思います。機械を使って子どもたちの居場所がわかるような仕組みというのは、世の中にあるはあります。「登下校管理システム」のような呼び名で呼ばれているシステムがほとんどだと思いますが、こちらは、まずお金の面だけでいえば、初期導入費が100万から200万のお金がかかってきます。それから、ランニングコストも必要になる代物であるということをご理解いただいた上で検討していただければと思います。

その他、子どもたち自身の手間という意味では大分簡素化されるのは間違いないのですが、管理者側は、毎年登録する子どもたちが変わってきますので、更新作業や、抹消作業が必要となります。あとは子ども自身が操作をしなければいけないという前提がありますので、操作が漏れてしまった場合の履歴の行き先がどこになっているのか、このような課題が出てくるのではないかと考えました。

一例を申しますと、私塾ですとか私立の保育園であれば、この部屋がプレイルームだとした場合、ネットワークカメラを1個、全体を俯瞰できるような形で設置して、保護者が好きな時間帯に、子どもたちの様子をスマホやパソコンから見るができる、それを安全対策の一環としている対策もございます。システムに関しては以上になります。

私個人の全体の感想といたしましては、今回、1,000円の値上げで着地しようとしているというのは、私自身は賛成です。ただ、この設定金額や運営自体の見直しというのは、時期を明確にさせていただいて、どのようなタイミングで見直すのか、運営に関しましても、どのようなタイミングで見直しを図っていくのかというのを通知していただきたいと思います。

それから、私自身が深く内容を理解していない面もあるかもしれませんが、子どもたち自身にも、あびっ子クラブについてアンケートをとってみるのもおもしろいと思います。例えば参加カードのお話が出ましたので、男性の意見かもしれませんが、子どもたちはスタンプラリーみたいなことがすごく興味を示すと思います。常磐線沿線ではアニメのスタンプラリーをやっていますが、スタンプラリー形式の参加カードにすると、少し盛り上がりを見せたりするのではないかと思います。あとは、子どもたち自身がサポーター側に立つという、運営のあり方もあっても良いのではと思います。幅広く意見を求めるという意味で、子どもたち自身にもアン

ケートを実施してみるのも良いのではと感じました。

私からは以上になります。

【委員長】 システムの具体的な情報提供、ありがとうございます。

値上げの時期ですが、登録料が1,000円になるのは平成31年度となります。また、具体的な運営方法が変わることについては、もう少し検討させていただき、できれば平成31年度に併せるのが良いかと思っております。ありがとうございます。

それでは、時間も残り少なくなりましたので、その他に移らせていただきます。来年度の運営委員会についてです。年に3、4回実施することを予定しております。実施の月は、5月、8月、11月、2月をめどに予定しております。時間は、今までどおり午前中とさせていただきます。来年度は、本日いろいろ議題があがりましたが、その検討見直しを行いたいと思います。その他、平成31年度に子ども・子育て計画の策定にあわせて、現在の子ども・子育て計画が平成31年度末で終了となり、平成32年度から新しい計画となります。その準備がありますので、その計画にあわせた議論もしていければと思っております。

委員の皆様方には、団体から選出されている方々がたくさんいらっしゃいますが、代表者や委員が変わることがあると思いますので、運営委員の引き継ぎをお願いできればと思っております。運営委員会への依頼文書は、4月に入ってから子ども支援課から各団体あてに依頼文書を送らせていただきます。よろしくお願いいたします。

【委員長】 最後に、委員の皆様1年間、大変ありがとうございました。さまざまな立場から具体的なご意見をいただき、おかげさまで色々なことを決定することができました。忙しい中、時間を割いて出席していただき、本当に感謝いたします。

それでは、これもちまして第4回放課後対策事業運営委員会を終了とさせていただきます。ありがとうございました。

— 了 —